

すきなふくを
きてるだけ
わるいこと
してないよ

あきはやく
めざましが
なつても

ピテカントロプ
スになるひもち
かづいたんだよ

あおぞらにのこ
されたわたしの
ころはなつも
よう

なによりたい
せつなものを
きづかせてく
れたね

まよわずに
セイイエス

どんなにはなれ
ててもころは
そばにいるわ

ふかくはてし
なくあなたを
しりたい

ぼくをそつと
つつむよな
ハーモニ

るるるる
うまくいえ
ないんだろ

あんたいいお
んなだったよ
そのぶんずる
いおんなだね

たいようがこお
りついても
ぼくときみだけ
よきえないで

アスファルト
にさくはなの
ように

あてもなくある
いたひとしれず
ためいきつく

おおげさにいう
のならば
きつとそういう
ことなんだろう

イランアフガン
きかせて
バラライカ

うごきだした
メロディららら
ラブソング

きつといまは
じゆうにそらも
とべるはず

いつのひか
かがやくだろう
あふれる
あついなみだ

そんなんどーだ
つていいからふ
ゆのせいにして
あたためあおう

ウィーウィル
ラブロング
ロングタイム

なにものにも
こびずおのれ
をみがく

わたしをつれて
いってそのてを
はなさないでね

おりなすぬのは
いつかだれかを
あたためうる
かもしれない

もともと
とくべつな
オンリーワン

アポロじゅう
いちごうはつ
きにいったっ
ていうのに

ほらまえをみて
ごらんあれがあ
なたのみらい

だれかとめる
ことなど
できるだろう

にがくて
せつない
かおり

つなみのような
わびしきにアイ
ノウおびえてる

みぎから
ひだりから
さそわれる
サラウンド

きずつけあう
ひもあるけれ
ども

ひとしれずな
がしたなみだ
があった

となりどおし
あなたとあた
しさくらんぼ

いつものざわ
めきあたらし
いかぜ

はじめていち
ずになれたよ
よぞらにひび
けあいノウタ

そこにわたしは
いません
ねむってなんか
いません

どこでなにを
しているの
だろう

あふれる
おもいが
とまらない

あかいいとで
むすばれてく
ひかりのわの
なかへ

つらいよ

ごしようのまえ
にこのとりあつ
かいせつめいし
よをよくよんで

しせんは
まるで
レーザービーム

どっちがすき
どっちもどき

たいようがし
ずんでよるが
おとずれるひ

なんどめかの
しつれんの
じゅんび

まだぼくも
ないて
いないのに

つぎの
もくてきちを
えがくんだ
たからじま

ゆれたマリー
ゴールドに
にてる

いつかおかあさ
んみたいなしず
かなやさしさで

なぐさめる
やつは
もういない

すきなものを
すきといえる
きもちだきし
めてたい

ぼくらは
いつまでも
みしらぬ
ふたりのまま

しんじることさ
さいごに
あいはかつ

はでなみずぎは
とてもむりよ
わかいこにはま
けるわ

きつとだれか
をかんじてる

あいをくれし
きみのなつか
しいこえがする

ほとばしるあ
ついパトスで
おもいでをう
らぎるなら

それだけじゃ
おなかが
すくわ

もがいてるなら
ぼくだって
そうなんだ

ふりつもる
ゆきとあなたへ
のおもい

わるそなやつは
だいたい
ともだち

えいえんと
よぶことが
できたなら

せかいが
うらやむ
イエーイエー
イエーイエー

こんなとこに
いるはずも
ないのに

きんだんのみ
ほおばっては
つきのうらを
ゆめみて

ハニーソースイ
ートかぎりない
ゆめをこのりよ
うてにつかんで

やさしいうそ
ならいらない
ほしいのは
あなた

まいしゅうきん
ようびにきてた
おとことくらす
のだらう

てっぺんさき
にらんで
うちゆうに
くつとばそう

みてくれや
さいのうも
ぜんぶふくめて

ただあなたに
だけとどいて
ほしいひびけ
こいのうた

せいじゃくを
きりさいてい
くつもこえが
うまれたよ

かしたかねの
ことなどどう
でもいいから

なみよもし
きこえるなら
すこしいま
こえをひそめて

ありのまま
ずっと
あいされてる

せつなに
ちりゆく
さだめとしって

ながめている
じかんに
しあわせが
あふれだす

きみとすきな
ひとがひやく
ねんつづきま
すように

たとえきせつが
ぼくのこころを
おきざりに
しても

このせまいここ
ろのおりもこわ
してじゆうにな
りたいの

ふたりのこどく
をわけあうこと
ができたのかい

つよくなれる
もうなにも
こわくないよ

がんばっている
からねって
つよくなるから
ねって

もうちよっと
かっこよかった
けれど

ときめきを
はこぶよ
チューチュー
トレイン

きみだけのおと
をきかせてよ
ぜんぶかんじて
るよ

ゆびさきでお
くるきみへの
メッセージ

あなたのおい
やしぐさや
すべてを

りゆうなんて
きかないでよね

それぞれのゆめ
へとぼくらを
つなぐエール

ここはうたげ
はがねのおり
そのだんとうだ
いをとびおりて

なつのまものに
つれさられ
ぼくのもとへ

といかけて
なげいたよる
まちはいつそう
かがやいて

だれもかわれ
ないって
ことみたいね

そのぶきつちよ
なわらいかたを
めがけてやって
きたんだよ

それはそばに
いることいつも
おもいだして

はなさないで
もうすこしだけ
もうすこしだけ
このまま

どっちかの
よるはひるま

そのすべてを
あいしてた
あなたとともに